

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'96

11

月号【1日発行】

二科展彫刻の部で上野の森美術館奨励賞
表紙絵の制作者、清水幹子さん



いまを話す

チャリティーをつづける昭和音大教授
早瀬 一洋さん
快樂止まりの音楽教育

第81回二科展彫刻の部 特選・上野の森美術館奨励賞

小誌表紙絵制作の清水幹子さんが受賞



四季折々の川崎の自然を描き、小誌の表紙を飾っている清水幹子さん（麻生区白山在住）が、九月に東京都美術館と上野の森美術館で開いた「第81回二科展」の彫刻の部で「上野の森美術館奨励賞」(特選)を受賞した。

受賞作の「白神―冬」写真には、動植物の宝庫として知られる秋田と青森の果境に広がる白神山地の自然の神秘を女体に織り込んだもので、鑑賞していた人は「作品を見ていると心が安らぎます」「心の奥にある喜びや悩みなどが、素直

に見つめられるような不思議な映像です」と話す。

白神山地は、広大なブナ林があり、さまざまな広葉樹が生い茂り、キツツキの仲間のクマガラ、熊、タヌキなどが生息し、山地を流れる水は日本海に注がれ、動植物・森と海の共生の場。

清水さんは「森、それ自体が人間の心身に潤いや安らぎを与えます。冬は動植物が厳しい寒さに耐え、春の準備をするとき。感性の世界で、そのことが少しでも表現できたらと考え、制作しました」と受賞の喜びを控え目に話した。

Stage Up 11 月号もくじ/1996年

■ほんねインタビュー いまを話す

チャリティーコンサートをつづける

昭和音大教授 早瀬一洋さん

「快樂止まりの音楽教育」

◎はりきつてます グループ紹介

大らかさ大切に率直な相互研究

板画トキの会

楽しめる音楽へ世代超え活気の練習

あさおポップスコラス

●学習・文化情報/会員募集 10

◇ミニニュース/編集後記 15

◆'97かわさきニューイヤークンサート 16

◎表紙絵……………初冬の多摩川の湿原に群がる野鳥

(川崎区殿町で)

清水幹子さん

(小誌は再生紙を使用しています)

かわさき市民アカデミー '96 学園祭ひらく

会員が企画 19の多彩な催し いきる学習の成果 市民が評価



学んだことが、その場で生かされると好評の「三味線音楽を楽しむ」

●三味線の生きた講義と伴奏に大満足

「三味線音楽を楽しむ」は、国立音楽大学教授の竹内道敬みちたかさんが笛、太鼓、三味線などの日本楽器が、湿度の高い日本の風土や生活と密接に関連して生まれたことを強調、三味線奏者の今藤政智師匠の演奏を交えながら「三味線は日本人の体質、気持ちにピッタリ合った楽器」であり、西洋楽器にはない魅力を語った。

受講生が、今藤師匠らの三味線伴奏で、長唄「都鳥」や「松の緑」を合唱した後、参加者全員で唄った「越後獅子」で、今藤師匠がアドバイス。「生きた講義」に参加者62人が大満足。

●視聴者は局にどしどし意見を

「テレビをどう見るか」では、アカデミー会員の守田啓子さんがコーディネーターを務め「テレビの視聴率至上主義で、テレビ局、スポンサーが批判の矢おもてに立たされているが、視聴者に問題はないか」と話しを向けた。

内川さんは「テレビ会社が視聴率を気にするのはスポンサー獲得のため。視聴者にいい番組を提供するためではない。また企業に『電波は公共』という意識がない」と指摘した。

仲築間さんは「トヨタの広告費は月3百億円。テレビ会社の収入は、視聴率と連結しているのだ。『女子中高生の性』を扱うと視聴率がいいが特殊な傾向だ。番組作りの際、バランスを考えず、普通の生徒に『私は時代遅れ』と錯覚させる恐れがある」とその影響力の強さを憂慮。

竹内さんは「視聴率は『見ている』で、『満足度』を示すものではない。現実離れた男女の古い役割分担を描く番組が多いが、局で働く

市民アカデミー会員が企画した「'96学園祭」が9月中旬の6日間、新百合21ホールやアカデミー本部(中小企業・婦人会館内)などであった。19の多彩な催しは、研究発表やシンポジウム、フィールドワークなど。「アカデミーで学んだ成果を生かした企画」と好評だった。竹内道敬・国立音大教授の講演と三味線奏者・今藤政智さんの「三味線音楽を楽しむ」、▽内川芳美・東大名誉教授、仲築間卓藏・前テレビ番組プロデューサー、FCT市民のテレビの会の竹内希衣子さんがパネリストのシンポジウム「テレビをどう見るか」をのぞいてみた。



パネリストと会場との論議も活発だった「テレビをどう見るか」

女性が少なく、女性のチェックが弱いことも影響している。テレビの前で、平気でプライバシーを見せたがる局には都合のいい視聴者もいる。テレビ局と議論したり、意見をどしどし言い、制作者の意識と番組を変える努力をしてほしい」と視聴者に主体性を求めた。

会場から「視聴率至上主義を許している背景に、大衆文化に接するときの問題を感じる」

「局幹部の『面白ければいい』との発言に、テレビの現状のすべてが象徴されている」「政・官・マスコミの癒着は？」などの活発な質問と意見が出され、予定時間をオーバーした。

いまを話す

ゲスト

チャリティーをつづける
昭和音大教授で声楽家の
早瀬 一洋さん

Vol. 49



——早瀬さんの出身地が私と同じ九州と知り懐かしくて。住み家を川崎にした時期は。

早瀬さん 音楽大学に行くため、中原区に住み、そのまま四十数年、住みついたことになりました。

——民間福祉作業所「ひかりの家」(古沢妙代表)とは、長いお付き合いなのですか。

早瀬さん 下宿先の田中さんと代表の古沢さんが知り合いで、川崎商業高校の教員のとき、ひかりの家主催のチャリティー・コンサートをお手伝いしたのがきっかけ

です。

——なぜ、チャリティー・コンサートを。

早瀬さん そのころ、音楽教育が渴いた状況にあることを痛感し、地域の人に音楽に親しんでもらうには、どうしたらいいのかと、考えていたんです。そのとき、ひかりの家支援の話が持ち上がり、チャリティーに結び付いたのです。

——そのとき心掛けたことは。

早瀬さん 開催する側の一方通行ではなく、地域の方々に準備のときから参加していただけたらと思いました。その方々の希望もあって、司会や照明を頼み、字幕をスライドで写しました。コンサートは好評だったと聞いていますが、経費が予算より掛かり、収益が少なかったようです(笑い)。

——それ以来、チャリティー・コンサートを続けられていますか、何か信念があったのでしょうか。

早瀬さん 実は僕、四十歳のとき感ったんです。声楽家として一生懸命勉強し、努力をしてきたけれど、何だったのかと。自分は世の中の役に立っていないし、人間としてのつながりも薄いと、むなしさと孤独感に襲われました。

くらしの豊かにならないのはなぜ？

快樂止まりの音楽教育にも原因

昭和音楽大学教授、早瀬一洋さん(57)は、中原区ではテノール歌手として知名度が高い。長年、民間福祉作業所のチャリティー・コンサートを開いてきた。「音楽家は、演奏に感動して下さる方がいなければ成り立たない。自分一人の幸せなんてあり得ない」と、きっぱり。クラシック音楽が多くの人々の生活に浸透しないのは、国民性なのか?。「快樂の音楽の先に幸福の音楽がある」という早瀬さんの話は、「豊かな時代」なのに「心や文化は豊かにならない日本」を知るうえで興味深い。「いい耳をつくるには、小学校に専任音楽教師を」「建物も楽器の一つ。川崎に残響のいいホールを」は、音楽の基礎を大事にする要望だ。インタビューは丸山博子さん。



孤独感救った初チャリティー

地域に根ざす喜び知り

わかるような気がします。

早瀬さん チャリティーで、自分が役に立つことができ、とてもうれしくて。チケットを買ってくれた近所の商店の方に「コンサート、よかったですよ」と言われ、これまでとは異なった喜びを感じました(しみじみと)。

— そのころ、キリスト教の信仰を持たれたそうですが。

早瀬さん はい。賛美歌の「主

に向かつて歌え」という意味が分かってきたんです。人に褒められたい、有名になりたいという気持ちがあったから、心がモヤモヤしていたと気づいたんです。主に向かつて歌うことが、間接的に人々の心の喜びになるとの思いが、信仰に結び付いたのだと思います。

— ご立派ですね。

早瀬さん いやー(首を振る)。

— 自分の傲慢さを捨て、主にゆだねたほうが楽でしょ。解放された心で歌ったとき、聴いて下さる人の心に届くのもかもしれません。

— 去年の暮れ、ひかりの家主催のチャリティー・コンサートで

早瀬さんの歌、いつまでも心に残りました。温かな響きの中に、今の私たちが忘れていた「愛」とか「小さな思いやり」とかのメッセージが込められ、いつかお礼を言いたいと思っています。

早瀬さん そんなふうには聴いて下さって……。身にあまる言葉を

いただき感激しています。歌うという自分の役割を考え、自分に合った曲を選んで、「一緒に感動しましょう」という気持ち、大切に生きてきたつもりです。これからも、心と技術を錬磨して歌わせていただきます。そうでないと、芸術のメッセージが届かず、一緒に感動してくれる人がいない演奏会になると思うんです。それに、偉大な作曲家に申しわけない気もします。



— そんな演奏会、時々ありますね。

早瀬さん そういう演奏会、僕は白けてしまうんです。プロの音楽家が迷惑をかけているのではなにかと。自己満足は罪悪ですよ。早瀬さんは自然体で歌われていますが、プロの道に転身されるまでもっとも苦勞された点は。

早瀬さん 僕は、赤面症で照れ症で演奏家に向かない、と思いな

早瀬 一洋 さん

はやせ・いちよう=1939年、熊本県城南町生まれ。東京芸術大学卒。武蔵野音楽大大学院修了。62年から9年間、川崎市立商業高校教諭、演奏活動も。70年、長門美保歌劇団「ミカド」でデビュー。日本オペラ協会の創作オペラ「三人の女達の物語」「春琴抄」にも出演。73年、東京学芸大講師。76年、昭和音楽大助教授。現在、日本オペラ協会会員、藤原歌劇団団員、昭和音楽大教授、昭和音楽芸術学院講師。中原区丸子通の自宅で妻、二女と生活。

から、歌でメッセージを伝えたくったんです。芸大在学中、テクニクの前で劣等感を持っていて、教員をしながら歌の勉強を続けたわけです。テノールで苦勞したのは、B(変口音)という高い音です。この響く声を出すには、かなりの忍耐と努力が入ります。オペラのマリアにできてきますが、感動が伝わらなければ台無しです。オペラは、言葉の壁もありますから。早瀬さん 観客が感動しないのは、歌い手がまずいからだと思います。昔、妹を連れてイタリアの

生徒に大切 多くの名曲鑑賞、合唱

クラシック とりこ

演歌好きが本物聴き虜に

ひかりの家主催のチャリティーコンサートで
ゆりがお児童合唱団と歌う早瀬さん



オペラ歌手のコンサートに行きました。美空ひばりが大好きな子で、感動してクラシックの虜になっちゃったんです。本物に触れると言葉が分からなくても感動できるんですね。E・オブラストウワさんの歌もロシア語で意味は分からないけれど、すごく感動しち

やう。楽しい歌は楽しく、悲しい歌は悲しさがひしひしと伝わってくるでしょ。

—— 本当にそうですね。ところで、商業高校時代はどんな先生だったのですか。

早瀬さん とにかく生徒を音楽好きにしたい。それだけでしたね。

指導要領がありますが、実際にはあんなことはできませんよ。生徒がたくさんの曲を歌い、名曲をたっふり鑑賞する、その二つが特に大切です。僕が歌うと生徒がっられて一緒に歌うんですね。だれかが心地よく歌えば、歌いたくなるでしょ（同意を求めするように）。自分が歌わないでピアノを弾いても、生徒はついてきません。

—— 若い人には、ロックやポップスなどのイージー・リスニングが好まれているようですが、からロックの要望がきました、そこは妥協しませんでした。ロックはテレビやラジオで聴けるでしょ。授業では、めったに聴けない名曲を聴かせるべきです（手振りを交え）。でも生徒が「文化祭でピートルズの曲を演奏したい」「卒業式で、仰げば尊しを歌いたい」と言ったときは、自然なことなので歌わせていいと思いました。

—— 今後の音楽教育は、どうあるべきだとお考えですか。

早瀬さん 世の中が受験体制で、音楽教育が盛んな一面もあります。しかし、芸術的に価値の高いクラシック音楽が、多くの人の生活に

浸透していませんね。それはなぜなのでしょう。山登りにたとえると、頂上まで登らずに、途中のお花畑で満足してしまうのです。語弊があるかもしれませんが、「快樂の音楽」のところまで来て、その上へ登らない。頂上まで登れば、大きな満足と幸せを感じることが出来る。「幸せの音楽」があると思うんです。そこまで、生徒を引き上げるのが教育です。

—— いまの教育はどう思われますか。

早瀬さん いま、心の時代とか、潤いが必要とかいわれていますが、音楽の出番なんです。十年ほど前、娘が学んだ川崎市立の小学校には、音楽の専任教師が一人もいませんでした。私が小学生のころの音楽の先生が、とてもピアノが下手で、伴奏がいつもブンチャツチャ。楽譜通りに弾けないんです。これでは音楽嫌いな子供をつくっちゃいます。僕が小学校こそ、音楽の専任教師がいることが大事だと思います。それは、いい耳を作るには小学生のときが肝心で、後は放っておいてもいいくらいだからです。

—— 音楽家育成の専門分野の教育については、いかがですか。

早瀬さん 根底に、何のための音楽かということがあります。亡くなった親父に「おまえは芸術家である前に人間であることを忘れるな」とよく言われました。

まったく同感です。

早瀬さん 自分の生徒たちに、「歌を取ったときの自分を見詰めたさい。変わっているとか常識がないと言われたら、音楽学校に来ない方がましです」と言います。



ヒバリがカラスだったらいい。

はあ？

早瀬さん 美空ひばりとマリヤ・カラスは天才ですから、わがままだったり、非常識といわれよう

が、何万人に夢を与えられるのですから（いたずらっぽく）。コンクールに入賞した程度の人が、傲慢になっては駄目です。例えば、僕から音楽家の部分を全部なくし、ただの早瀬一洋にしたら「なんだ、あれは」ということがあってはいけない（やや厳しい口調で）。

音楽をしているという変な優越感、あるかもしれません。

早瀬さん 小さな才能でも、それを通して愛や平和、幸せにつながる人生を歩んでほしい。音楽に満ちた家庭を築く。ピアノを教える。コーラスに加わり、指導する。専門を生かせる場がいっぱいあるんです。子供のころから僕の根底にあるのは、周りの人の幸せがあって、自分も幸せでいられる、それが世界平和につながるという思いでした。音楽家は、演奏に感動して下さる方がいなければ、成り立たないんです。ですから、自分の幸せはあり得ないんです。

「ホールも楽器の一つ」

音楽水準高めるため、行政が力を



丸山博子さん

幼少のころからクラシックが好きだったので。

美空ひばりも大好き

早瀬さん そのころ、耳にしたのは美空ひばりのような音楽だけです（笑い）。僕も大好きでした。クラシックに縁の薄い人も希望が持てます。

早瀬さん 音楽的環境は良かったとはいえませんが、いまの僕が「歌を聴いて、感動し共感してほしい」という気持ち強いのは、そのころの影響があるのかも。

音楽を庶民の生活の中で共感したいという思いでしょうか。

早瀬さん そうですね。だからチャリティーにも結びついたらと。

ひかりの家のバザーでは、家族ぐるみで協力し、知的障害者の道ちゃんたちと、自然に接しているとお聞きしました。

早瀬さん 僕の弟が障害者で、娘たちがその姿を見ていて、障害者への思いやりの心や理解が、生活のなかで培われたのでしょうか。

最後に、生涯学習の時代に、市民文化、音楽をみんなが楽しむには、どんな手立てが必要だと思いますか。

早瀬さん 川崎音楽文化連盟が推進力になっていただきたいですね。僕も微力ながらお手伝いできたらと思っています。ハードの問題ではぜひ、コンサートホールを造ってほしい。ヨーロッパは石の建物で、そこから生まれたクラシックは、残響のある文化です。日本のクラシック音楽の水準を高めるには「入れ物も楽器の一つ」と考えていただきたいと思っています。

多目的ホールは残響がないので、演奏家も聴衆もクラシックの本当のよさを堪能できませんね。

早瀬さん 地方に、いいホールがたくさんできています。川崎で行政がリーダーシップを発揮して音楽専用ホールができることを期待しています。

題字は高橋清・川崎市長
構成／野々川千恵子
文責／田中 閑

はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ

学ぶ

活動する

仲間を助ける。



大らかさ大切に 率直な相互研究

板画への意外な楽しみ

板画トキの会

「板画づくりは、刷って、ひつくりかえす時がすごく楽しみ。がっかりしたり、小躍りしたり。その意外性がたまりません」と「板画トキの会」のメンバー十四人は、その魅力を語る。板に直接、勢いをぶつけて描く「棟方志功の手法を

学ぶ四、七十代の男女が和気あいあいの中で切磋琢磨している。

原画、下絵、彫り、刷りの作業の大半を自宅で行い、第二・第四火曜の午後、高津市民館に集まり例会を開く。各会員の下絵や作品の相互研究や技術研修。ときには野外に出掛けスケッチ、展覧会に行き、その養分の吸収に心掛ける。

談笑しながらの例会。彫刻刀を握り版木を彫る手元に微妙な力を入れる人。版木に紙をあて馬棟でこする人、下絵を描く人、多色刷りする人、会員の制作の苦労話を聞く人。おおらかな雰囲気と創作意欲が溶け込む。初心者には一から教えてくれる。

毎年制作のオリジナル・カレンダーを楽しみにしている市民も少なくない。来年八月のカレンダーは、ヨットと波ガモチーフの田中政夫さん(76)の「爽快」。「空がちよつと強すぎるのでは」「波をもう少し太くしては」の批評に、田中さんは素直につなぎ、原画に筆を入れる。絵にメリハリがつく。「いいね本当に」「湘南の海の爽快さが伝わる」と高い評価。

「相互研究でカチンとくることも」と正直な声も出る。率直に批

評しあうことで「コミュニケーションが深まり、作品がレベルアップ。川崎市内が題材の「おらが街を彫る」は共通テーマ。その作品もかなりの数になり、すでに消えた風景もある。市民から「大山街道や子母口のような」などの版画をまとめ作品集を」との要望も。

同会は、昭和六十二年高津成人学校木版画コースの修了者有志で発足。毎年夏、作品展を開いてきたがその際の入会者もいる。

「板画を始めてから、年賀や中元、歳暮のあいさつをオリジナル・カードで出し、お付き合いに潤いが、生活の中で、版画の絵になるかとの意識が働き、楽しさと感動が」と会員は声をそろえる。

今一郎さん(66)は「退職後の人生が生きいき。作品を人に見てもらおう緊張感がいいようです」と張りのある声。

高橋礼子さん(46)は「会員は人生の達人ぞろい。絵以外のことも楽しく話せます」と笑顔で話す。同代表宅は高津区新作四の二の五。☎(08066)4204。

文／小誌・野々川千恵子
カメラ／小誌・山本 綾子

はりきってます グループ紹介

ミュージカルメドレーに挑む

あさおポップスコーラス

軽音楽や映画音楽のハーモニーが響き、「ミュージカル」を演ずる「あさおポップスコーラス」西村貞奈代表(42)ら三十人のメンバーは「型にはまらず、自由に楽しく」である。

毎週火曜日の夜になると、麻生文化センターや青葉幼稚園のホール(麻生区上麻生)から、軽快なメロディーとコーラスが聞こえる。メンバーの体全体でリズムをとっている練習だ。

ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、男声に分かれて、まずは、レパートリーの中でもお気に入りの「Sir Duke(愛するデューク)」で「歌ならし」。

「体がほぐれるよう音程を気にせず、リズムを取って……」と、指導者で音楽家の西村勝行さんがピアノでイントロを弾き始める。メンバーは指を鳴らし、足を軽くたいて曲のムードをつかむ。異なるパートと目を合わせ、話しか

けるように歌う。ソプラノの一人が手拍子を始めると「イエツ」の掛け声が飛ぶ。コンサート本番のような活気と笑顔、笑顔、……。

楽しめる音楽へ
世代超え活気の練習



そして、ミュージカル音楽のヒットナンバーの中から「南太平洋」「キャッツ」など二十曲のハイライトをつなげた「ミュージカルメドレー」の本格練習に入る。西村勝行さんが、ワンパートずつピアノを弾く。音を覚える会員。「音痴になっちゃった」との冗談も交差する明るさだ。「美女と野獣」から「コーラスライン」への入り、

かつこいから全員でもう一度」と、自画自賛のリクエストをする会員もいる。

十年間で、レパートリーは五十曲にもなる。西村勝行さんが、あさおポップスコーラスだけのために編曲したオリジナルだ。

寺田千夏さん(29)は「幅広い年齢の人と楽しく歌える空間が好き。曲の歌詞から時代背景が分かり面白い」と目を輝かせる。

木元捷三さん(54)は「青春時代に目にしたメロディーなので覚えやすく楽しい」と遠くを見つめる。森千鶴子さん(65)は「難しいリズムも他の会員がリード。気持ちも服装も若返りました」と笑顔。

南本啓子さん(48)は「かつて感動した曲を生ピアノで歌えて夢のよう」と感激の面持ち。西村代表は「歌う人も聴いている人も楽しめるのが音楽の力。老人ホームなど人前で歌える所があれば、出掛けます」と地域とともに歩む会を強調した。

同代表宅は麻生区万福寺二の一の一〇の四〇六。☎(966)69806。

文／小誌・山本 綾子
カメラ／小誌・野々川千恵子

仲間と楽しむ

学ぶ

活動する

仲間づくり

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

「講座・イタリアルネッサンスの美術◆川崎信用金庫新百合丘支店会議室」

11月18日から毎週(月)13時半から。全5回で5千円。講師の棚橋恵津子さんが数回のイタリア旅行の際、撮影したスライドを中心に話す。定員30人。来春、希望者を募りイタリアの美術館めぐりの旅も計画。申し込みは☎(4-11)7773の当事業団学習事業室向河原分室内、かわさき市民フロンティア(主催)。

①ワークショップ教室②わくわく実験教室③古代エジプト人もびつくりノリノリの世界④やさしい先端技術講座◆東芝科学館①は11月20日(水)21日(木)9時半から入門コース②は13時半から基本コース。1人1台のワークショップで指導。教材費千円②は11月9日(土)10時と13時から、目に見えない力を実験と解説

市外局番のないものは044

学習・文化情報

「写真」で。対象は小学生以上③は11月14日(木)10時と13時半から、幅広い分野で活躍の「マイクロ作業ロボット」を実演と解説で。②

③無料。定員①各10人、他は各250人。申し込みは☎(549)2200の同館。川崎駅からバス。



「女流棋士による将棋講座◆川崎市民プラザ」11月24日(日)9時半から。船戸陽子・初段がルール、詰め将棋の手筋、こま落将棋の実戦指導。2千円。定員40人(抽選)。申し込みは11月15日必着で往復はがきに住所、

氏名、年齢、電話番号を記し〒213高津区新作1の19の1、同所「市民プラザ将棋講座係」☎(888)3131。

「福祉講演会く現代のストレスとその対応◆川崎授産学園」11月30日(土)10時から。講師は聖マリアンナ医大精神療法センターの渡辺直樹さん。無料。定員50人。申し込みは11月29日までに☎(954)5001の同園。新百合丘駅からバス。

「麻生地域セミナー①」わたしの木」写真撮影会②都市の森づくりを訪ねて③鶴見川流域の文化を訪ねる◆新百合丘駅改札口ほか集合①は11月16日(土)。十二神社で思い出に残る木を写す②は11月24日(日)。多摩市桜ヶ丘公園で雑木林ボランティアを考える③は12月1日(日)。鎌倉幕府による鳥山の開発跡と、小机城の探索。集合場所は①麻生区役所時計台前。資料代、保険料300円。交通費は実費。

②③は駅改札口。いずれも9時半集合で弁当持参、小雨決行。申し込みは、前日までに☎(951)1300の麻生市民館。

「パートタイム雇用管理セミナー◆県川崎合同庁舎」11月12日(火)13時半から「女性の多様な戦力化」と題し伊藤実・日本労働研究機構研究所主任研究員が講演。事例を右澤信一・さいか屋川崎店次長が発表。事業主向け助成金、給付金の説明も。無料。申し込みは☎(233)7351内線2

82の県川崎労働センター。「大野一雄・舞踏を語る◆中村正義の美術館」11月24日(日)16時半から。一般千500円、学生千300円。申し込みは☎(953)4936の同館。読売ランド前駅からバス。

「VOICETRAINING講座」水曜・金曜コース②七宝焼入門③鎌倉彫入門◆県立高津青少年会館」①は11月6日、12月25日の

毎週(水)11月1日、12月20日の毎週(金)18時半から、各全8回。発声法の基礎からコーラスに向け②は11月12、26日の毎週(火)19時から、全3回。アクセサリーを制作③は11月15日、12月20日の毎週(金)19時から、全6回。いずれも対象は青年で無料(②③教材費実費)。定員は10、15人。申し込みは☎(844)2101の同館。

「麻生平和人権セミナー」民主主義は今…?!◆麻生市民館ほか」11月30日(土)「歴史から見直す民主主義」講師は馬場康雄・東京大教授。会場は市生涯学習振興事業団研修室▽12月7日(土)「議会制と政党政治」。講師は石川真澄・新潟国際情報大教授。いずれも10時から無料。申し込みは前日まで☎(951)1300の同市民館。

「ニューカップルセミナー◆麻生市民館」11月30日、12月14日の毎週(土・水)と12月15日(日)10時から。全6

学習・文化情報

魅力的な講演がある

回。出産、育児について沐浴実習、地域情報を交え学ぶ。これから親になる男女20組。無料。申し込みは11月16日10時から☎(951)1300の同館。

「ハンガリー語初級講座◆登戸ドレスメーカー学院」

11月9日(土)12時から、東欧の音楽・料理・手工芸に触れ日常会話を楽しむ。講師は日・ハ文化交流協会の糸栄美子さん。受講料千円。

20人。申し込みは午前中に☎(911)2221の同院。向ヶ丘遊園駅下車。

「あなたにとつてのバリアフリーとは◆日本女子大西生田生涯学習センター」

11月30日(土)14時から「バリアフリー(障壁除去)のすまいづくり、まちづくり」と題し、野村みどり・都立医療短大助教授が講演。会費千円、学生無料。有料保育あり。申し込みはがき

に住所、氏名、電話番号、保育希望は子供の年齢、性別を記し〒216宮前区宮崎1の9の44の501、谷村嵩子さん。☎(866)8285。会場は読売ラン

ド前駅からバス。日本女子大教育学科の会主催。

「①彩色クロッキー②花の文化史◆玉川大学」①は11月13日、12月18日の毎週(水)17時半から、全6回。人物をモチーフにアクリル・水彩絵の具を使って素描。

講師は松本純一・同大女子短大助教授。受講料1万8千円。15人②は11月9日、12月7日の毎週(土)か(金)14時から、全5回。花が生活文化にどんな意義を持つかを考える。講師は田中宏・同大教授ら。受講料は1万5千円。60人。申し込みは☎0427(39)8895の同大継続学習センター。玉川学園前駅下車。

「講演①イーハトーブ童話と風土②賢治の作品と心◆麻生市民館」①11月29日(金)18時半から、賢治作品の舞台となった写真を見ながら、渡部芳紀・中央大教授が講演②12月1日(日)15時半から、賢治の時代と生涯などについて萩原昌好・埼玉大教授が講演。無料。先着2百人。申し込みは☎(951)1300の同館。

「聖マリアンナ医科大東横病院市民健康セミナー」ボケの予防と介護◆市中小企業・婦人会館 11月9日(土)14時から、今井幸充・同院精神神経科部長の講演と質疑。看護婦、薬剤師による相談コーナーも。無料。150人。申し込みは当日会場。問い合わせは☎(722)2121内線522の同院庶務課。

「講習会①庭木の剪定②春の七草の鉢作り③正月の寄せ植え(松竹梅)◆市緑化センター」①は11月27日(水)。無料②は12月4日(水)。教材費700円③は12月13日(金)。教材費4千500円。いずれも13時半から。定員各30人(抽選)。申し込みは①11月20日②22日③12月3日までに往復はがき(1人1枚)に講習会名、住所、氏名、電話番号を記し〒14多摩区宿河原6の14の1同センター。☎(911)2177。

「芸術文化1000年史」18世紀、そしてオペラ◆昭和音楽芸術学院 11月16日(土)12月14日▽来年1月11日(2月15日の毎週(土)(30日を除く)13時半から、全10回。音楽劇(オペラ)における倒錯美、女形・男装・カストラート▽歌舞伎とオペラ▽文明の諸段階と音楽劇の消長、西欧とインド・中国・日本など毎回テーマが変わる。講師は海老澤敏・国立音大園長▽関根敏子・昭和音大講師ら。受講料、教材費5千円。先着180人。申し込みは☎(953)1230の昭和音大生涯学習センター。新百合ヶ丘駅前。

「企業内福祉推進者養成講座◆県川崎合同庁舎」11月7、28日の(木)13日(水)19、26日の(火)、9時半から(初日は9時20分)全5回。カウンセリング▽ストレスとメンタルヘルス▽若手社員とのコミュニケーションなど。講師は石光哲哉・産業労働研究所顧問▽盆子原敏・横浜国際福祉専門学校講師ら。無料。50人。申し込みは☎(233)7351内線284の県川崎労働センター。

「市立看護短期大学公開講座「健康生活をめざして」中高年のライフ・スタイルを考える」◆同大学 11月30日(土)12時50分から。同大教員の講義と5つの小セミナー。無料。申し込みは11月20日までに往復はがき

に住所、氏名、電話番号を記し〒211幸区小倉1541の1、同大学教務課公開講座担当。☎(587)3502。



「「ひかりの村」建設のための友愛セーリングひかりの家」11月30日(土)、12月1日(日)10時15時。民間福祉作業所「ひかりの家」(古沢妙代表)の手づくりクッキー▽ケーキ▽キャラメル▽和紙工芸品と日用雑貨など2千点を格安で。「村」は知的障害者と高齢者が暮らし、仕事をすすめる共生の家。2年後の建設を目指す。問い合わせは☎(455)0538のひかりの家。平間駅下車。

「①わら細工「しめ縄」作り②舞台公演◆日本民家

学習・文化情報

参加したい催しがある

園①は12月8、15日の日10時から。正月の飾りを作る。教材費込み各500円。各30人(抽選)②は11月3日(祝)13時から。旧船越の歌舞伎舞台上で伝統的民俗芸能を公演。無料。雨天は10日(日)に延期。申し込みは①は11月24日までに往復はがきに住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区枳形7の1の1、同園②は不要。☎(922)2181。

〔韓国映画祭〕市市民ミュージアム 11月9日(土)「常緑樹」A、「帰らざる海兵」D 10日(日)「金葉局の娘たち」A、「望夫石」B 16日(土)「米」A、C、「雨のめぐり逢い」C 17日(日)「甕をつくる老人」A、「修学旅行」B。上映開始はA 13時半▽B 16時▽16時15分▽D 16時半。各回入れ替え。観覧料は大人800円、小中学生400円。問い合わせは☎(754)4500。

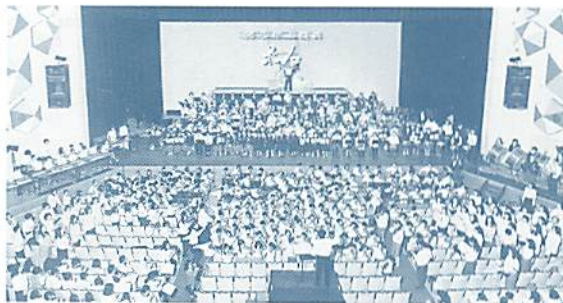
①たかつ遊友広場②たかつ音楽祭◆県立高津青少年会館①は11月9日と12月14日(土)の9時から、ゲーム・パズル・卓球広場▽10時からクラフト広場。対象は小中高生。クラフトのみ先着10人。参加自由②は11月10日(日)13時から、コーラス、器楽演奏。問い合わせは☎(844)2101の同館。

〔専修大学風祭〕同大学生田校舎 11月7日(土)13時から。同校舎から向ヶ丘遊園・登戸駅周辺を仮装・みこし行列。小雨決行▽9日(土)、賞品が当たる「ボール投げゲーム」宝探しふうゲーム▽10日(日)、大ピンゴゲーム▽同日16時半から、SMILE・エレファントラブルIVE。全席自由で学内2千800円、チケットぴあ3千円。整理券は当日11時から配布。問い合わせは☎(911)1308の同祭実行委。向ヶ丘遊園駅からバス。

①星を見る夕べ②天体写真撮影会③生田緑地ミニ観察会◆市青少年科学館 ①は11月9、16日(土)17時半から。月、土星を観望。雨、曇りはプラネタリウムで②は12月22日(日)17時半から月を撮影。小5以上。一眼レフボディなど持参③は11月17日(日)9時、同館集合。持参物有り。いずれも無料。小学生以下は要保護者。②③中止。申し込み②のみ11月24日9時から☎(922)4731の同館。

〔賢治と銀河鉄道の夜②おはなしのたまは③映画「風の又三郎」と女優風見章子の対談④映画「賢治のトランク」ロードショー◆麻生市民館ほか〕①は11月16日(土)18時から、賢治の星を観望しながら川崎天文同好会の人話とビデオ上映。無料。先着百人②は11月29日(金)30日(土)の14、15、16時から、「注文の多い料理店」「さしきぼっこのはなし」他をスライド、絵本で無料。先着各30人③は11月30日(土)18時から、又三郎のお姉さん役の風見さんと渡部芳紀・中央大教授の対談と映画。大人・子供とも500円。先着2百人④は12月1日(日)10時から。大人千円、子供500円。先着2百人。会場は①のみ川崎授産学園。申し込みは☎(951)1

300の同館。①電話で③④直接来館②申し込み不要。〔「ボレロを楽しむ会」参加者募集〕市教育文化会館で、12月15日(日)16時開演の「ボレロ」写真の演奏者を募集中。練習は日曜



車いす、ベッド、トイレ、介護用品、住宅改造など最新の福祉用具を展示▽14日(木)14時から「介護とわたしの熱い関係」と題し、俳優・滝田栄さんがトーク▽15日(金)11時から、高齢者の着やすい服について栗田佐穂子・登戸ドレスメーカー学院教師が講義▽同日13時半から「高齢障害者のQOL(生活の質)を考える」をテーマに、森井聡・市老人保健施設三田あすみの丘作業療法士が講演▽16日(土)11時から、洗髪と排泄介助について、小川ミナト・川崎ヘルスボランティアの会代表が話す▽同日13時半から「アメリカ市民の家族とその後」と題し、お茶の水女子大学のブレンダ・ロップ・ジェニキさんが講演。無料。申し込みは前日までに☎(976)9002の市高齢社会福祉総合センター。

ステージ

〔紅葉寄席◆川崎市民プラザ〕11月9日(土)18時開演。出演は春風亭柳昇、春風亭

学習・文化情報

ききたい音楽がある

昇太、三笑亭夢丸。前売り
千八百円、当日二千円。☎
(888)3131。

―伝統と現代く日独青年
文化交流コンサート◆ドイツ
文化会館(地下鉄銀座線青
山1丁目駅下車)ほか12
月15日(日)14時半開演▽17日
(火)17時、調布市文化会館

(京王線調布駅下車)で公
演。チャイコフスキー「ピ
アノ三重奏」偉大なる芸術

家の生涯▽林晶彦「オー
ボエとチェロのためのレク
イエム」他。出演は川崎市

在住の丸山朋文さん(チェ
ロ)と澤菜穂子さん(バイ
オリン)ら若き音楽家と95

・96年ドイツ青少年音楽コ
ンクール優勝者。入場料は

15日2千円、17日千円。同
コンサートはドイツと日本

で交互に開かれるレベルの
高い音楽会。前売りは ☎

(989)1338の丸山
さんか ☎(954)843

4の澤さん。JMLセミナ
―入野義朗音楽研究所主催

「峯藤高コンサート◆花
ホール」11月9日(土)19時開

演。シャンソン、カンツォ
ーネ、ラテンの本格派の演

奏。全席自由で前売り3千
円、当日3千3百円。問い

合わせは ☎(812)60
90の同所。溝ノ口駅下車

「賢治の愛を謳う◆麻生
市民館」12月1日(日)13時開
演。しし踊りのはじまり▽
セロひきのゴーシュ他を谷

口秀子とボランの広場会員
が朗読し、小原聖子(ギター

―丸山朋文(チェロ)菅
原陽子(打楽器)が演奏。

この後、シューマン「トロ
イメライ」▽E・グラナド

ス「スペイン舞曲第5番」
他のミニコンサート。無料。

先着2百人。申し込みは ☎
(951)1300の同館。

①管弦打コンチェルト
の夕べ②シンフォニック・

ウインドオーケストラ定期
演奏会③アカデミー室内オ

ーケストラ演奏会④ブリテ
イッシュ・ブラス定期演奏

会◆洗足学園前田ホール
①は11月8日(金)。モーツァ

ルト「フルート協奏曲第一
番、K313」▽サン・サ

ーンス「チェロ協奏曲第一
番、作品33」他。指揮・秋

山和慶、演奏・洗足学園大
学管弦楽団、独奏・同大学

生②は11月22日(金)。J・バ
ーンズ「シンフォニック

オーバチュア」▽O・レス
ピーギ「ローマの祭り」他。

写真はず昨年③は11月28
日(木)。ヴィヴァルディ「調
和の靈感」より作品3の「

和の靈感」より作品3の「
▽チャイコフスキー「弦楽
セレナーデ」他。バイオリ

ンと指揮・海野義雄、チェ
ンバロ・森島英子④は12月

3日(火)。J・V・ロースト
「フラッシュ・ライト」▽

P・スバーク「ジュビリー
序曲」他。指揮・大木孝雄、

ユーフォニアム独奏・ステ
イーブン・ミード。いずれ

も18時半開演。①は無料
(要整理券)、他は全席自由

千円。問い合わせは ☎(8
77)3211内線285

の同学園大学演奏部。溝ノ
口駅下車。

「麻生フィルハーモニー
管弦楽団定期演奏会◆麻生

文化センター」11月10日(日)
14時半開演。シヨスタコー

ヴィツチ「交響曲第5番」
▽ペートーヴェン「交響曲

第一番」▽ラヴェル「古風
なメヌエツト」指揮・小田

野宏之。全席自由千円。問
い合わせは ☎(955)1

953の横須賀さん。
「かわさき市民「第九」

コンサート◆市教育文化会
館」12月14日(土)16時半開演。

指揮・石川真也▽ソプラノ
・蒲原史子▽アルト・竹田

千津子▽テノール・大野光
彦▽バリトン・松本進。千

円。問い合わせは ☎(22
2)8821の市文化財団。

「定期能く宝生流◆川崎
能楽堂」12月7日(土)14時か

ら第一部。能「井筒」、狂言
「八句連歌」▽16時から第

2部。能「藤戸」、狂言「地
蔵舞」。各部3千5百円。前

売りは11月7日9時から ☎
(222)7995の同堂。

問い合わせは ☎(222)
8821の市文化財団。

「テノールの饗宴くナポ
リターナ・歌曲・オペラア

リアの夕べ◆中野ゼロ・ホ
ール」11月11日(月)19時開演

ブッチーニ「歌劇「トゥー
ランドット」から「誰も寝

てはならぬ」▽トステイ
「セレナータ」▽サルヴァ

トーレ「カタリ・カタリ」
他。出演は早瀬一洋▽秋山

衛ほか、62・63年東京芸大
卒業生。ピアノは浅井康子

他。全席自由4千円。問い
合わせは ☎03(5466)

3181の日本オペラ振興
会。JR中野駅南口下車。

「語りLIVE◆ミニホ
ール新宿Fu」11月9日(土)

18時開演▽10日(日)14時半開
演。演目は、蜘蛛の糸(芥

川龍之介作、小松左京作)
▽ある朝突然に(森瑤子作)

ほか。全席自由3千円。問
い合わせは ☎(711)8

032の話芸写(主催)。会
場は新宿駅東口下車、新宿

永谷ビル1階。



学習・文化情報

みたい絵画がある

ギャラリー

「中村正義の美術館」11月9日(土)〜12月8日(日)「山下菊二と正義」展。山下菊二の超現実主義的表現を用いたルポタージュ絵画。写真は「凶焰」1971年などを展示。一般500円、学生300円、小中生200円。☎(953)4936。読売ランド前駅からバス。



「市民ミュージアム」

11月10日(日)まで「弘法大師信仰」展。弘法大師信仰の形成・発展・諸相や川崎大師平間寺の沿革について展示構成。金沢貞顕書状(県立金沢文庫所蔵)日輪大師像(川崎大師平間寺所蔵)など貴重な資料120点。一般700円、小1大学生300円。11月19日(火)来年3月2日(日)「向秀男の広告美

学」展。戦後の混乱から高度経済成長へ変容する中、第一線で活躍したアートデザイナー・向秀男のポスター、新聞・雑誌広告など180点。一般300円、小1大学生100円。☎(754)4500。

「スナック喫茶琴」11月2日(土)〜30日(土)、文月会水墨画展。市民が描いた花鳥山水。☎(544)0507。鹿島田駅下車。

「麻生市民館」11月29日(金)〜12月1日(日)賢治のイメージの世界「黒井健が描く賢治の詩」詩「雲の信号」をモチーフにした作品の原画▽初版本「春と修羅」▽直筆原稿の複製▽本と写真の展示。無料。☎(951)1300。

「画廊ランプ屋」11月3日(木)まで、ステージ・アツブ表紙絵を制作した、田村あや展「野の花に贈る詩」▽8日(金)〜18日(月)「こぼやしゆう土のしごと」展。自由な発想で作ったユニークな形の器。写真▽29日(金)〜12月7日(土)、裂織4人展。京都の作家が古い布をベス

トやコートに仕立てた工芸品。☎(945)4416。稲田堤駅下車。



「ギャラリー幸」11月6日(火)まで、革芸芸グループ

「耀展」。即売あり▽8日(金)〜13日(水)、MAP展。モダン、アート、ビジュアル▽15日(金)〜27日(水)、山の展。山岳風景▽29日(金)〜12月4日(水)、方波見功一個展。水彩、リトグラフ。☎(55)8181。川崎駅下車。

会員募集



●語りの会話芸写代々木上原教室《中原区新丸子町750GSハイム103、話芸写》実力派俳優、北川智繪のマンツーマン指導で「演劇色の濃い語りがフロ並みになった」と、門下生は評判。「小田急線沿線にも教室を」の要望でこのほど、

代々木上原駅そばにも「稽古場」が。台詞、ナレーション、読み聞かせを基礎から本格的に学び、新しい自分を発見したい方、どうぞ。月2回、月曜18時から3時

ミニニュース

賢治の学校が現代に語りかけるものは…

丸山さんTV出演
8月中旬、狛江市の工コルマホールで「賢治の学校」の生徒たちが、劇「宮沢賢治『よだかの星』を公演し、麻生区白山在住のチエリスの丸山朋文さん(高校2年)が音楽担当で出演。

この劇が公演されるまでの「賢治の学校」の人たちの生活ぶりや心の葛藤が、9月4日夜、NHK3チャンネルETV特集「宮沢賢治『よだかの星』を生きる若者たち・賢治の学校の4カ月」として放映された。

番組のはじめとエンディングで流れた公演の画面のなかで、演技者たちの動きを見ながら弓をひく丸山さんの真剣な表情が印象的。

間です。年2回の東京での「語りLIVE」も一緒に。入会金2万5千円、月会費1万2千円。問い合わせは☎044(711)8032の話芸写。

大自然に包まれた長野県美麻村の「賢治の学校」では、現代社会で生きることに関心を持った学生、教員、看護婦たちが生活をともにしながら、これまでと違った何かを学んでいく。

人間と自然との関係や、親子の絆などについて、何回も何時間も話し合い、心を開いていく。食事作りを拒む仲間に対しても事実に基づいて話し合う。傷ついたら心を癒す治癒力と包容力が大自然にはある」と感じ、効率主義やピラミッド型の上下関係が人間疎外につながっていることを示唆する番組だった。

宮沢賢治生誕百年。賢治の思想や理念の新鮮さに感動し、かつて素晴らしい日本人がいたことに誇りを覚える視聴者も多かったことだろう(Y)。

演奏会形式の初の
市民オペラが成功

川崎発世界へ一歩

かわさき市民オペラ「宝
蓑」が9月27日夜、エポツ
クながはらであり、9百人
の観客を前に演奏会形式で
初演された。

台本・作曲は谷川忠博さ
ん(多摩区在住)。指揮は守
谷弘さん(宮前区在住)。川
崎を中心に活躍の音楽家で
結成したふるさとオペラ合
唱団・合奏団と、男女9人
のソリストが新鮮。語りは
藤井チズ子さん。

オペラは、チエロ独奏の
幻想的な旋律で始まる。主
役の娘役は、3人のソブラ
ノが交代で歌う。音色の異
なる歌声が物語のムードを
盛り上げる。娘が、山姥の
家から帰る途中、6人の鬼
が登場。鬼たちが、和太鼓
の軽快なリズムにのって刀
を振る。扇子、鈴を持つ
て踊り祭りのよう。

演奏は1時間。大役をこ
なした出演者たちに、今後
の期待を込めた拍手が送ら
れた。

オペラの後、世界的プリ

マのエレーナ・オブラスツ
オワさん(メソソプラノ)
が特別出演。エレーナさん
の優雅さとダイナミックな
歌声、ヤン・ホラークさん
のピアノが溶け合い、ホー
ルに響き渡る。30分間の演
奏だったが、観客の心は幸
福感に浸ったようだ。

同オペラは、民話「山姥
の宝蓑」をもとに台本を作
り、方言が多く使われ、仏
教の経典音楽、声明をモチ
ーフに展開されているのが
特徴。

大里洋子・川崎音楽文化
連盟代表は「来世紀へ向か
つて、川崎から世界で活躍
する音楽家が育ち、川崎の
オペラ・音楽が世界に羽ば
たいて欲しい。今日が、そ
の記念すべき誕生日になる
ことでしょう」と話す。

「宝蓑」の本格的オペラ
公演は、来年1月10日18時
半から、麻生文化センター
で行われる予定。

問い合わせは ☎(811)
6701の同文化連盟。

おねがい 小誌の感想や
生涯学習についてのご意見
をお寄せ下さい。

＝市民に支えられ「いまを話す」が来月号で50回＝
長寿企画の秘訣 読者の推薦でゲスト決める

「ほんねインタビュー いまを話す」は、12
月号で50回になります。多数の読者の方々の、
「次はどんなゲストがてるか楽しみ」「いまは
な」は、市民手づくりの人材バンク。これから
も頑張つて「バックナンバーには、さまざまな
ヒントがあり元気になる」との励ましの言葉に

支えられ、今日を迎えました。
「インタビューはゲスト次第。評判倒れの人
もあり、読者が満足するのは半数」との説があ
ります。「いまを話す」がこの説に当てはまらない
としたら、それは読者の推薦によってゲスト、
インタビュアーを決めているからでしょう。

編集後記

市民の方々
が今月号を手
にした時には、
衆議院の新分
野が決まって
いるはずだが
「過去最低の

投票率」と「鳩管新党の民
主党への「風」は微風に終
わる」と勝手な予想をした
▼それは、無党派層が有権
者の過半数に達しているこ
とに象徴される「政治の閉
塞状況」を打開するだけの
パワーが、民主党に感じら
れない▼それと、前回の衆
院選の際の「日本新党プー
ム」のような期待感だけで
国民が投票行動に走るのか
という疑問▼さらに、この
三年間に国民が、公約破棄
のオンパレード、政治家と
政党の理念・政策抜きで離
合集散など、さまざまなこ
とを学習し、政治への失望
感を増幅させた▼これが予
想の根拠だが、いずれにせ
よ、国民の学習効果につい
て、政治家は注目する必要
がある▼同時に「過去最低
の投票率」は民主主義の危
機であり、予想がはずれる

ことを願っている▼ところ
で、先日、川崎区貝塚のS
さんという女性から、編集
チームへ抗議のしがきをい
ただいた▼ある公共施設で
幼児・児童向けの人形劇が
あることを小誌で知り、観
賞の予約申し込みをして、
当日、三歳の子供とその公
共施設へ行ったところ、す
でに人形劇の公演が終わっ
ていた▼小誌の記事が一時
間、間違っていて「子供が
「見たかったのに」と大泣
きました」とある▼調べてみ
ると、その施設から送られ
てきたファックスと小誌の
記載時間は一致していた▼
元原稿の間違いなのか、
その後なにかの事情で公演
時間が早まったのか、訂正
を小誌に送ったが間に合わ
なかったのか、定かでない
▼Sさんが申し込んだ際、
確認のひとことがあれば、
と悔やまれる▼「仕事に習
熟することは大切だが、仕
事となれ合うことは禁物」
と住専の過剰融資での識者
の言葉も「文の校正は、必
ず対面でやる」も真理だと
思った(田)。

第8回

かわさきニューイヤーコンサート

かわさき新人音楽会

'97年1月19日(日) PM2:00開場 PM2:30開演

川崎市教育文化会館大ホール

入場料 1,000円 (全席自由)

●発行
電話044(952)5000代
(財)川崎市生涯学習振興事業団

〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル
FAX044(952)1350 編集人・田中 園

①

ピアノ
平山友紀子



リスト「バラード第2番」

②

ソプラノ
西村三治代



ドニゼッティ「一滴の涙」
「歌劇『ドン・バスカアーレ』より「騎士はあのまなざしを」」
ピアノ伴奏 東 由輝子

③

ピアノ
平尾 暖子



ラフマニノフ「楽興の時」
作品16-1、3、4」

④

フルート
川田恵理子



イベール「フルート協奏曲第2楽章」
ピアノ伴奏 下迫千陽

⑤

テノール
辻端 幹彦



ドニゼッティ「歌劇『愛の妙薬』より「なんと美しく、なんと可愛い」「人知れぬ涙」」
ピアノ伴奏 小介川淳子

⑥

ピアノ
小松 紀子



ショパン「ファンタジー作品49」

⑦

チェロ
松浦健太郎



チャイコフスキー「ペッツォ・カプリチオーソ作品62」
ピアノ伴奏 今井 正

⑧

フルート
横小路瑞葉



イベール「フルート協奏曲第3楽章」
ピアノ伴奏 矢野麻由子

⑨

ピアノ
渡邊佐和子



ベートーヴェン「ソナタ第30番ホ長調作品109」

⑩

ヴァイオリン
佐々木弘恵



ラヴェル「ツィガーヌ」
ピアノ伴奏 白石 准

⑪

ピアノ
増村 浩代



リスト「ソナタ風幻想曲「ダンテを讀みて」」

⑫

ソプラノ
由比 昌子



フォーレ「トスカーナのセレナーデ」
トーマ「歌劇『ミニヨン』より「君よ知るや南の国」」
ピアノ伴奏 砂川京子

●チケット (財)川崎市生涯学習振興事業団 ☎952-5000
●販売 当事業団情報コーナー ☎233-6250・各市民館・川崎音協
●問い合わせ 当事業団小杉分室(文化イベント事務局) ☎422-3932
主催 (財)川崎市生涯学習振興事業団/川崎市教育委員会